

開いたハスと閉じたハス

合掌は仏教のシンボルです。右は仏さまの手、左は私の手です。合掌は、私と仏が一体になった礼拝の姿です。

胸の前で両手をあわせて拝むことによって、自分の心を正しく見ることができます。なぜならば、仏さまの鏡に私の心が照らされるからです。つまらない心も、すばらしい心も、ずるい心も、おもいやりの心も、いろいろな心模様を、「ほら、汝の心を見られよ」と、仏さまから鏡が差し出されるからです。合掌は自分の心を写す鏡です。

自分の姿を鏡に写すことによって、乱れを直すことができます。他人から、「お前の心はひん曲がっているぞ」と、注意されれば腹が立ちます。しかし、自分の歪みが仏さまの鏡に映し出されれば、自分で直すことができます。

悟りは遠いところではありません。自分の心を正しく自覚することが悟りです。自分自身に気づくことが悟りです。悪い習慣も、自分で気づけば止めることができます。合掌はとてもシンプルなポーズです。こんなに簡単な姿勢を保つだけで、非常に大切なものごとに気づかせてくれる力が秘められています。

左右の掌をいっぱい開いて、そのまま両手の親指と小指を着ければ、ハスの花が八葉に開いた形になります。これを「開蓮華」といいます。その開蓮華をすぼめて、うずらの卵を包むような形にすれば「合蓮華」になります。

閉じたハスの意味と、開いたハスの意味を、空海さまは次のように表現されています。

◆凡夫の心は合蓮華の如く 聖人の心は開蓮華に似たり (秘蔵記)

凡夫の心は蓮華の花弁がまだ開いていない形であり、
聖人の心は蓮華が開いた姿に似ている。

私たちは、生まれながらにして仏の種を持って成長します。いつのまにか食欲に溺れ、宝のありかを忘れてしまっているのです。ハスの蕾のように、静かに手を合わせてみてください。心が清々しくなり、乱れた気持ちも自然に落ち着いてきます。

そのまま合掌を続けていますと、ハスの花が少しずつ開いてくるように、宝石箱の蓋が開いてきます。キラキラと輝く私の心を感じたならば、その精神でものごとに当たっていけば、そのまま社会に役立つエネルギーになります。

蕾のように閉じられた心を、合掌によっていっぱい開いてみましょう。悩みも、苦しみも、みんな自分を育てるための材料であることに気づくことでしょ。